

2013年度 キッズ国際学園学習方針 家庭学習、宿題キッズ・プログラムについて

2013年度、キッズ国際学園は漢字学習1時間、国語学習2時間、算数学習2時間の5時間授業に、総合学習1時間を加えた計6時間のカリキュラムで運営してまいります。

キッズ国際学園の学習方針

キッズ国際学園での学習は、国語科と算数科の二つの教科を柱とします。この二つの教科について、子供たちがしっかり日本語で学習し、日本へ帰国する・しないにかかわらず、国語科、算数科について、文部科学省学習要領に示された学習内容を子供たちがしっかり理解し、習得するためのプログラムを提供することが、キッズ国際学園の学習方針です。キッズ国際学園では、このことを実現するため、独自の取り組みとシステムを導入しています。

また、キッズ国際学園をはじめとする補習授業校では、一年の授業日数が少ないため、一日一日の授業がとても大切です。子供たちが学習する内容、学習する単元、学習のポイント、宿題の範囲などについて、保護者の皆様にしっかり理解していただく必要があります。

国語科については、日本でも漢字離れ・漢字嫌いが問題となっていることを勘案し、キッズでは、漢字学習を独立して扱い、漢字嫌いにならないような工夫を取り入れながら、日本語にとって大事な漢字を定着させるプログラムを考案し、導入しています。また、最近の教科書の傾向である音読・物語教材の減少に対してこれを補う音読・物語教材を使用し、逆に、増加傾向にある「調べよう」「話し合おう」といった全体学習の単元については、授業時間確保の観点から、省略するか完全にスキップするなど、教科書の学習内容について取捨選択し、学習時間の効率運用と学習効果の向上を目指します。

また、キッズでは「正しい文字を美しく書く」ことを目的として国語学習、漢字学習の指導を行っています。このことを実現するため、キッズでは筆記具についても検討し、**国語科では2B の濃さの鉛筆**の使用を推奨しています。これは、日本語の文字では、やわらかい鉛筆で書くほうが「止め」「はね」「はらい」など、本来筆で書くことを前提とした漢字を書くことに適しているからです。このことに加え、やわらかい鉛筆で書くことで、文字を正しく美しく書くことができるようになります。

ただし算数科では、位取りをしっかり意識した計算をしたり、グラフなどを正確に描くといった細かい鉛筆での作業が必要となりますので、**H あるいは 2H など、すこし固めの鉛筆**の使用をお勧めしています。通常使用される HB でもかまいませんが、少し固めの鉛筆の使用をお勧めします。

算数科での学習方針としては、教科書の一つの単元について、2週(2日)から3週(3日)程度で学習します。学習の進度は教科書本来のものよりかなり速いため、「疑問」から「問いかけ」を発問とする方法では消化しきれません。このため、学習内容に応じて、単元のコンセプトの理解、学習のポイントの指導、演習で定着を図るという指導を、学習塾で使用される副教材を活用して行います。場合によっては、教科書の学習単元の順番を変更し、また、宿題については、現地校での学習内容を踏まえ、補助教材から適度な量の宿題を毎週課します。

キッズの総合学習の時間は、基本的に「楽しい」時間、国語・算数とは違った学習を行う時間としてプログラムに取り入れ、理科、社会、図工、体育などの学習を行います。この時間に学習する理科、社会科の内容は、教科書を網羅した内容にすることは時間的に無理があり、それぞれの学年でメインとなるべきコンセプトについて、ピックアップした内容を学習します。体育の授業では、クラスや学校全体の親睦を図ることも視野に入れています。

国語科

主な教材として文科省認定国語教科書を使用しますが、以下の副教材を併用し、より効率的、効果的に学習を進めます。

副教材について

1・2・6年生

- 小学生ワーク（学校図書）年間 教科書準拠
学校での学習の復習用（宿題）として使用します。
教科書の内容と勉強の仕方がよくわかります

3・4・5年生 育仲社ホープ「Book」と「ドリル」

- ホープ Book → 学校での学習を前提に、塾で教えるためのテキストブックです。
教科書とは異なる音読、読解などの教材を取り入れた塾教材で、読解中心という目的のはっきりした教材です。今年度は毎回の宿題として、音読教材としても幅広く使っていきます。
- ホープドリル → 学校での学習を前提に、塾で教えるためのテキストブックです。
Bookとは異なり、文法中心の教材です。国語力をつけるため、宿題や、時には授業でも使用します。

漢字学習について

キッズでは、国語の時間（2時間）とは別に1時間「漢字の時間」を設けています。毎週の漢字学習において、学校で学習した漢字を家庭で復習し、翌週のテストで定着させるという学習方法をとっています。

漢字の学習（書き取り）については、オリジナルの漢字手本をよく見ながら、「とめ」「はね」「はらい」などに注意して、ていねいに大きめの**8マスノート**に書きます。**漢字をたくさん書くのではなく、集中して、ていねいに書くようにします。**

ノートはなるべくマス目が大きなもの、鉛筆は2Bなどのやわらかいものを使用します。

大事な点は、たくさん書きすぎないことです。ひとつの漢字について、2つか、多くても3つ程度と考えてください。「たくさん書くことで覚える」という考える方もありますが、キッズではそのようには考えません。たくさん書くことで逆に文字がいい加減になり、「書く事（書き終えること）」自体が目的になってしまわないようにすることが大切です。

漢字を書くときは、書き順も含めて「ていねいに、ゆっくり正しく書く」こと、漢字を覚えるために「声に出して読む」ことが効果的です。なるべく一度で覚えるため、大きく書かれたキッズの漢字手本をよく見て、書き順や「とめ」「はね」「はらい」などに注意しながらゆっくり、しっかり書き取ります。覚えて定着させるためには、視覚と動作（手の動き）と聴覚（声に出して読む）の三つを関連付けて記憶として定着させることが効果的であることが分かっています。寝る前に漢字を練習してそのまま寝ると、寝ている間に記憶が整理されて定着するというのも、最近の研究で分かっています。

また、一度に全部練習してしまうのではなく、「寝る前にやる！」というように、時間を決め、少しずつ学習することが望ましいです。できれば毎日、学年によりますが、6つの漢字をそれぞれ一文字、二文字づつていねいに書くというような学習が効果的です。**漢字の時間には、前の週に学習した内容のテストがありますので、金曜日に事前のチェック**

クをして、テストでよい結果を出せるようにしてください。テストでよい結果が出せれば子供は漢字に自信を持ち、漢字が嫌いになることはありません。この達成感が、漢字学習の意欲を高めると考えています。

今年度は全学年、部首の学習を取り入れます。漢字を分解して覚えることで、さらに漢字力をアップする狙いです。

12月末までに各学年の漢字を全て終え、1月からは、もう一度その学年の漢字を復習し定着させるようにします。2月から3月までには、次の学年の漢字導入に入ります。

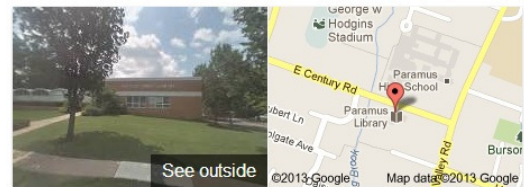
毎年キッズでは、1月末から2月始めにかけて漢字検定を実施しています。漢検では、合否の結果にかかわらず、今後の漢字学習についてのアドバイスがされるなど、漢検の受験自体が子供たちの励みにもなっています。

音読、読書について

教科書の音読は、基本的に予習として出しています。1回目はつかえたりしますが、2回目、3回目ぐらいでスラスラ読めるようになってきます。読書については、日本語の本を読まなくなるこどもが年齢とともに増えてきます。これは、聴いたことのない日本語の言い回しや言葉がわからないからです。このような、子供が自分で読むには少しレベルの高い本は、保護者の読み聞かせ(感情を込めたり、切るところでしっかり切る)を積極的に行ってあげてください。好きな本でしたら何回読んでよいと思います。

また、「まんが」も立派な日本語教材です。絵で場面や情景が説明されているので、言葉の使い方、言い回しや漢字(小学館や集英社などでは、漢字に読み仮名が振られています)などの学習に役立つだけでなく、日本語の活字ばなれをなくすのにも良いと考えています。

ただ、子供が読むマンガをすべて購入することは、現実的ではありません。このため、公立の図書館を活用していただくことをお勧めします。パラマスのパブリックライブラリは、公立の図書館としては他に類を見ない(?)ほど日本語の図書が充実しており、特に、日本語のマンガの量は半端ではありません。また、読みたいマンガがなければ、リクエストにも答えてくれるというサービス振り。キッズから車で5分の距離にありますので、遠方の方も、キッズでお子様をドロップオフした後、ご利用いただくことができます。



Paramus Public Library
E116 Century Road, Paramus, NJ 07652

作文宿題について

基本的に、作文は学校で指導し清書をご家庭でしていただくようにしていきます。ただし、一年に何回か、読書感想文、日記、今週のニュースや簡単なテーマの作文をしています。家庭で一から指導しないとできないような作文の宿題は、キッズでは出さないようにしています。

算数科

文科省算数教科書について

算数科でも教科書は主な教材として使用しますが、六日間の授業日数を前提とした導入部分や計算問題など、教科書通りに行っていたのでは、週一回2時間の授業時間では足りません。このため算数科教科書は、最近の教科書の作成動向にあわせ、興味を引くために作られた部分(主に実習)や、計算方法などを分かりやすく解説している部分などを効果的に利用し、加えて育伸社ホープ Book を教科書の「要約」として利用します。

育仲社ホームページ教材について

● Book → 学校での学習を前提に、塾で教えるためのテキストブック

内容： 教科書の内容の要約＋練習問題

* すべての単元で要約がでているわけではなく、必要な単元でのみ要約を掲載しています。(計算中心の部分などでは、計算の方法をなぞって行くような形で掲載しています)

解答集： 答えのみ (今年度分より解答集は Book そのものに組み込まれ、別冊ではなくなりました)

● ドリル → 塾での学習を前提に、家庭での宿題として使う

内容： 練習問題

(学習した内容を思い出しながら取り組み、徐々に導入的な部分が少なくなっていくような問題の出し方)

解答集： 答え＋家庭学習の手引き - (今年度分よりドリルに組み込まれ、別冊ではなくなりました)

家庭での学習サポート - 宿題の答え合わせについて

宿題の答え合わせ(○付け)は、保護者の皆様をお願いしています。これは、保護者の皆様の答え合わせと、学校の先生の宿題の確認作業とは、その目的が全く異なるからです。

週一回の学校では、答えや漢字を間違ったまま宿題の提出日まで待つことになると、場合によっては、一週間訂正されないままになってしまうことがあります。中には、間違った漢字を使ったまま文章を書いて、それが定着してしまうこともあります。このため、効率的な学習に結び付けるには、間違った答えや書き間違えた部分を、すぐに直して訂正してあげることが大切です。このため、宿題の答え合わせは、保護者の皆様をお願いしています。

また、キッズでは、答え合わせの際に「×(バツ)」は使わないようお願いしています。間違った部分は「×」を付けるのではなく、赤で下線、星印で、間違っていることを教えてあげてくださるよう、お願いしています。

可能であれば、下線を引いた部分について改めて子供たちに取り組ませ、二度目で正解したら丸を付けてあげます。このとき、二度目も間違えていたら、該当する問題のチェックボックス(□)にチェックを入れます。この部分も、ボックスに「×(バツ)」を入れるのではなく、チェック(☑)を入れるようにします。このようにすることで、チェックが入った問題はその子にとって「要注意」問題であることが分かり、間違いやすい傾向性などが明確になります。

学校での先生の作業は、子供たちが宿題に取り組んできたかどうか、理解していない部分や間違いの傾向性などをチェックすることが宿題の確認作業の目的であり、必要に応じてコメントを付けるなどの確認作業を行います。しかし、授業時間の合間に答え合わせまでしていたのでは、先生が本来行うべき宿題の確認作業ができません。

「子供たちがせっかくやってきた宿題を、その日のうちに返してあげたい」…このことを実現するためには、保護者の皆様が宿題の答え合わせ(○付け)という分担部分を果たしていただくことが必要です。よろしく願いいたします。

宿題キッズ・プログラムについて

キッズでは、家庭環境での指導が難しい場合の宿題について、児童自らが宿題をこなしてゆくことができるようにするためのプログラムです。「宿題キッズ」と呼び、放課後の学校で宿題をしながら、わからないところを先生に質問したり、指導を受けたりすることのできる場を提供する、有料のプログラムです。

宿題キッズ・プログラム

時間: 3時05分 ~ 4時00分

場所: キッズ国際学園 教室

参加資格: キッズ国際学園 生徒であること。

参加費用: \$ 10.00 / 日

その他: 学園行事の関係で実施されない日もありますので、その場合はご了承ください。また、ご希望の方が多い場合、参加できる生徒数を制限させていただくことがあります。

週一回の補習授業校では、5日間の教育プログラムを一日で終わらせなければならないため、土曜日の授業だけではなかなか定着を図ることができません。そのため、必要量の宿題を課し、家庭学習で確認・定着を図るのがキッズ国際学園での学習・宿題になります。キッズの子供たちはこの点を良く理解しており、毎週がんばって宿題をこなしていますが、中には宿題の習慣ができていないため、自らでは宿題ができない場合もあります。キッズの宿題は基本的に復習で、「保護者の方に教え込ませる」ようなものではありませんが、自ら進んで宿題をする、という習慣がついていない子供の場合、保護者にとっても子供にとっても宿題が負担になるケースもあるようです。

このような状況を鑑み、放課後教師の指導の下、子供たちが自ら進んで宿題を行う場を提供することが宿題キッズ・プログラムの目的です。子供たちは、学年を問わず一緒に宿題を行います。その日に勉強した内容をすぐに確認できますし、分からない点や不明な点はすぐに先生に質問することができます。加えて、教科担任以外の先生からの指導も受けることができますので、指導の内容にも多様性が生まれます。また、放課後ですから、子供たちはリラックスした雰囲気の中で宿題に取り組むことができます。

家庭ではなかなか始められない宿題も、学校では始めるのならさほど負担にはなりませんし、家庭で一時間以上もかかってしまうような宿題を、多くの子供が15分から20分ぐらいで終わらせることができるようになります。また、自ら宿題をすることで宿題に対する抵抗感がなくなり、自己学習の習慣が身に着きます。このため、普段の日の宿題の負担が軽くなり、日本語での学習と英語での現地校の学習が両立できるようになったとの声を多く聞きます。

ご家庭での宿題が負担になっている方に、現地の学校とキッズの学習の両方を無理なく続けていただき、効率的な学習と、自己学習という学習習慣を身につけるため、このプログラムをお勧めしています。